

令和5年度

納所小学校

学校教育の重点

みんなが“大好き！”

納所小学校をめざして



京都市立納所小学校

学校教育目標

「自ら学び、認め合い、伸びていく子どもの育成」

めざす子ども像

① のぞみをもって、努力し続ける子

- ☆話をしっかり聞き、よく考える子
- ☆自分のおもいを表現し、伝え合える子
- ☆すすんで課題解決し、あきらめずに取り組む子

確かな学力【知】

② うつくしい心を持ち、
自分も友だちも大切にする子

- ☆人とのつながりを大切にし、感謝や思いやりの心がもてる子
- ☆すすんであいさつができる子
- ☆自らを律し、きまりを守れる子

豊かな心【徳】

③ そうめいで、心身共にたくましい子

- ☆自分でしっかり考えて正しく行動できる子
- ☆めあてに向かって頑張る子
- ☆命を大切にできる子

健やかな体【体】

～チーム納所の4つの視点～

安心・安全な風土作りを心掛け、自己存在感がもて、自己決定の場もあり、共感的な人間関係を大切にする、「チーム納所」

★何ができるようになるか

◆育てたい資質・能力

学力の3要素

◇基礎的・基本的な知識・技能

⇒何を理解しているか。何ができるか。生きて働く【知識・技能】の習得

◇課題解決に向け自ら判断し、表現・行動する力

⇒理解していること、できることをどう使うか。

未知の状況にも対応できる【思考力・判断力・表現力】の育成

◇学んだことを生活の場や自己の生き方にいかす力【学びに向かう力】

◇人の喜び、辛さや悲しみを受け止められる力【人間性】

◇健康や安全について考え行動し、命を大切にする力【生きる力】

⇒どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか。

主体的に学習に
取り組む態度

★何を学ぶか

★どのように学ぶか

目標達成に向けて

(1) 安心して、楽しく学べる学校づくり

○わかる授業

- ・指導と評価の一体化
- ・言語活動の充実
- ・個に応じた指導の徹底
- ・基礎的、基本的な内容の定着
- ・焦点化した授業
- ・問題解決的な学習の充実
- ・地域の人材、教材を活かした学習
- ・帯時間の学習の実践
- ・毎日の家庭での自学自習の習慣化

○楽しい学級

- ・一人一人を大切に
した学級経営
- ・気持ちのよい一日の
スタート
- ・いじめ、不登校の未然
防止と仲間づくり
- ・道徳教育の推進
- ・係活動の活性化
- ・人権教育の推進
- ・積極的な保護者とのコミュニケーション

○安心できる学校

- ・あいさつの徹底
- ・清掃指導の徹底
- ・健康教育の推進
- ・安全教育の徹底
- ・防災教育の充実
- ・組織で対応する生徒指導
- ・児童の思いをいかした
特別活動
- ・栽培、飼育活動の充実

(2) 教職員のあるべき姿

- ・教育公務員として望ましい言動
- ・個を活かした組織 ・チームとしての対応
- ・子どもや親のせいにならず、実態から学び、実践する。
- ・課題解決に向けたプロセスを重視する。
- ・働き方改革の推進（ライフワークバランス）
- ・学校評価システムを生かした取組の展開
- ・環境への配慮と効率のよい予算の執行
- ・保幼小中連携や地域ぐるみの教育の創造と充実

《取組の重点》

(1) 学習指導の重点

- ①一人一人の思いや考えを大切に学習を展開するため、学習ツールや学習形態等を工夫し、みんなで高め合う授業を展開する。
- ②学習の基礎となる言語活動を培うため、家庭と連携を図り、読書ノートを活用した「めざせ100冊・読書マラソン」等の読書活動の促進を行う。
- ③基礎的・基本的な学力の定着に向け、PDCAのサイクルにより、研究・実践を推進し、授業の工夫・改善と家庭学習の習慣化に向けた取組を推進する。
- ④ジョイントプログラム、学習確認プログラム、全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上プランを実行・推進する。
- ⑤子どもが生き生きと主体的に学習する「総合的な学習の時間」を展開する。
- ⑥道徳教育、外国語活動・外国語科の充実を推進する。
- ⑦ICT機器を、積極的・日常的・効果的に活用し、情報活用能力を育成する。
(GIGAスクール構想の推進・KYOTO×教育DXビジョン)

(2) 人権教育の重点

- ①子どもたちの人間関係や学校、学級の規律は、学校における人権教育の基盤であることを意識して教育活動を進める。
- ②同和教育・外国人教育・男女平等教育・総合育成支援教育について、年間を通して計画的に「きずな学習」を行い、人権に対する認識を育て、多種多様な人や考えを尊重できる子どもや集団を育む。
- ③子ども一人一人が端末を安全に安心して活用できるよう、情報モラル学習を行い、家庭と連携しながら正しい活用ができるようにする。

(3) 生徒指導の重点

- ①児童と「納所小学校 十のやくそく」を制定し、教職員が率先して取り組む。
- ②楽しい学校・学級の実現に向け、仲間づくり・絆づくりに取り組む。
- ③不登校・倦怠学傾向の子どもには、積極的に粘り強い指導や家庭への働きかけを継続する。
- ④生徒指導課題のある子どもの情報を共有し、初期対応を共通理解する。報告・連絡・相談の徹底。チームで速やかな対応ができる学校体制を継続する。
- ⑤SC・SSWや、児童相談所等の関係機関と連携を深め、不登校、いじめ、問題行動、虐待等の課題解決に取り組む。
- ⑥生徒指導の実践上の4つの視点・いじめアンケート・ク라마ネを活用し、自分の指導を振り返る。

(4) 健康教育の重点

- ①新しい生活様式を踏まえた、心と体の健康づくりに向け、計画的な健康教育の取組を進める。
- ②新型コロナウイルス感染症のような病気、けがに対して、その原因や予防法について発達段階に応じた理解を図り、自分の身を守ろうとする意識と態度の育成に努める。
- ③子どもの食生活の実態を把握しながら、望ましい食習慣の定着にむけて取り組む。
- ④「早寝、早起き、朝ごはん」の徹底に向け、保護者への働きかけを強化する。

(5) 安全教育の重点

- ①学校及び地域における生活安全について、子どもの意識の向上を図る。
- ②授業や学校行事をはじめ、休み時間その他における学校生活の安全について指導を徹底する。
- ③地域やPTAとの連携を密にし、交通事故や不審者による被害等にあわないよう登下校や放課後の過ごし方について指導を強化する。
- ④防災教育・防災管理について見直し、防災マニュアルの点検やあらゆる場面を想定した避難方法について確認し実践にいかす。
- ⑤自分の命を守り抜くための知識や態度が子どもの身に着くように、安全教育・防災教育を展開する。

(6) LD等支援の必要な子どもの教育の重点

- ①個別の指導計画・個の課題に応じた指導計画を作成し、適切な支援による教育を推進する。
- ②LD等支援の必要な子どもの課題を教職員が共通理解し、適切な支援により一人一人の学力向上を図る。